

# 東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

|           |   |
|-----------|---|
| タイトル      | 第19回東邦大学医療センター佐倉病院内科学講座例会および第16回東邦医学会佐倉内科分科会  |
| 作成者（著者）   | 東邦大学医学会編集委員会  |
| 公開者       | 東邦大学医学会   |
| 発行日       | 2024.06.01  |
| ISSN      | 00408670  |
| 掲載情報      | 東邦医学会雑誌. 71(2). p.103-109.  |
| 資料種別      | 学術雑誌論文  |
| 内容記述      | 学会抄録(分科会)   |
| 著者版フラグ    | publisher   |
| メタデータのURL | <a href="https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD79360663">https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD79360663</a> |

# 第19回東邦大学医療センター佐倉病院内科学講座例会 および第16回東邦医学会佐倉内科分科会

2023年12月3日（日）10時～16時  
東邦大学医療センター佐倉病院 7F 講堂

開会の挨拶 松岡克善

## 第I部 学内研究発表

座長：岩下裕明，岩川幹弘

### ①呼吸器/膠原病グループ

#### 肺 MAC 症患者における Amikacin liposomal inhalation suspension の臨床的有効性

若林宏樹，松澤康雄，入江祐介，酒井大輝，内堀 超，高島健太，村上 悠，岩崎広太郎，金子開知

Amikacin liposomal inhalation suspension (ALIS) は難治性・再発性肺 MAC 症に対する治療薬である。当院における ALIS の治療継続率，有効性と安全性を報告する。

### ②血液グループ

#### Clinical significance of the IgG subclass measurement by flow cytometry for the severity assessment of hemolytic disease of the fetus and newborn disease

清水直美

不規則抗体による胎児新生児溶血性疾患の重症度判定には抗体価測定が行われている。我々はフローサイトメーターを用いた不規則抗体の IgG サブクラスの測定を行い，HDFN における重症度評価の有用性について検討を行ったので報告する。

### ③糖尿病・内分泌・代謝グループ

#### 減量・代謝改善手術により乾癬が劇的に改善した高度肥満症症例における CAVI の意義，VAP-1 の可能性

山岡周平，阿部一輝，田中 翔，中村祥子，堀川 修，渡邊康弘，山口 崇，

清水直美，高橋由佳，辻沙耶佳，大城崇司，三津山信治，樋口哲也，齋木厚人

感染の発症，増悪因子として肥満症が知られている。皮膚科治療にも難渋する乾癬を合併した高度肥満症患者に対してスリーブ状胃切除術を施行した症例について，術後の乾癬や動脈硬化関連因子の経過，またその要因として VAP-1 の可能性についても検討を行ったので報告する。

### ④循環器グループ

#### 大動脈弁狭窄症の CAVI，その意味と可能性

清水一寛

大動脈弁狭窄症患者の CAVI が低値にでることに関し，スウェーデンから 2021 年に最初の報告がなされた。今回，我々

は、大動脈弁置換術前後の CAVI の変化と関連因子に関する検討を行い、その意味と可能性を報告する。

## ⑤消化器グループ

レジストリを活用した患者さんのための炎症性腸疾患臨床研究を目指して

松岡克善

炎症性腸疾患の患者数は国内では急増している。炎症性腸疾患は若年者に発症することや悪化時には症状が出ることもあり、患者の日常生活に大きな影響を与える疾患である。こういった患者の日常生活への疾患の影響をレジストリを活用することで明らかにし、患者の QOL を向上させる臨床研究を展開している。今回は、その研究の一端を発表する。

## ⑥腎臓グループ

慢性維持透析患者の細胞内外水分量比と骨格筋指数 (Skeletal Muscle Index : SMI) を用いたサルコペニア評価

石井信伍

サルコペニアの診断基準の判定評価の一つとして骨格筋指数 (Skeletal Muscle Index : SMI) がある。今回我々は InBodyS10 を用いて透析患者の細胞内外水分量比と SMI を計測し、筋肉組織の質的・量的変化を捉えサルコペニアを評価した。

## 第 II 部 前期 1 年目研修医発表

座長：中神隆洋，菊地秀昌

### ①十二指腸潰瘍穿孔の治療選択についての 1 例

内田健登

指導医：小林 楓

症例は十二指腸潰瘍を繰り返している 81 歳男性。今回腹痛を主訴に来院した。造影 CT で上腸間膜動脈症候群及び十二指腸潰瘍穿孔と診断し、保存的治療で改善した。文献的考察を加えて報告する。

### ②心不全加療中に急速進行性糸球体腎炎を発症し虚血性心疾患への治療介入に難渋した一例

田中大晴

指導医：岩川幹弘，吉田規人

心不全で入院した 77 歳男性。経過中に経時的な腎機能低下があり、精査で ANCA 関連血管炎と抗 GBM 抗体陽性の急速進行性糸球体腎炎であることが判明した。本症例について文献的考察を交えて報告する。

### ③SGLT2 阻害薬内服中に正常血糖ケトアシドーシス，尿路感染症を発症した 1 例

石井孝志

指導医：堀川 修

2 型糖尿病加療中の 84 歳女性。SGLT2 阻害薬の内服開始直後、尿路感染症を契機に正常血糖ケトアシドーシスを発症した症例を経験した。SGLT2 阻害薬の副作用や適正使用に焦点を当て、文献的考察を加えて報告する。

### ④高血糖緊急症の原因としてアナモレリン塩酸塩の関与が疑われた 1 例

市川詩織

指導医：山岡周平

膵臓癌の化学療法中に高血糖緊急症となり救急搬送された 79 歳女性。その原因薬剤として癌悪液質に対し処方されたアナモレリン塩酸塩が挙げられた。本症例について文献や過去の経験症例を交えて報告する。

### ⑤閉塞性大腸癌にステントを留置し外科的切除を行った一例

松岡広陽

指導医：関 駿介

閉塞性大腸癌の診断となった 79 歳女性。外科的切除の適応であり、前処置としてまず大腸ステントを留置し腸閉塞の改

善を図った。一時的なステント留置が外科的切除に与える影響について文献的考察を交え報告する。

#### ⑥モストグラフが病勢の把握に有用であった高度肥満気管支喘息患者の1例

秋山菜々子

指導医：若林宏樹

肥満は気管支喘息の増悪因子である。我々はモストグラフを用いて、高度肥満気管支喘息患者の気道抵抗をモニタリングした。肥満患者の減量は気道抵抗を改善させ、喘息コントロールを良好にする可能性が示唆された。

#### ⑦感染性心内膜炎の診断に FDG-PET/CT 検査が診断に有用であった1例

長澤啓太

指導医：野中翔矢

僧帽弁置換術の既往のある46歳男性の発熱。診断に難渋するも、最終的にFDG-PET/CTが決め手となり感染性心内膜炎と診断し治療開始できた1例。診断基準として知られるDuke基準の変遷と併せ報告する。

#### ⑧意識障害をきたした血管内大細胞型B細胞性リンパ腫の1例

李 勇平

指導医：清水直美，中尾三四郎

血管内大細胞型B細胞性リンパ腫の診断で加療中の79歳男性。原因不明の意識障害と発熱で来院されたが、診断に至るまで2ヶ月かかり、難渋した。今回は血管内大細胞型B細胞性リンパ腫の臨床病理学的特徴に焦点を当てて、文献的考察を加えて報告する。

### 第 III 部 後期研修医発表

座長：伊藤拓朗，若林宏樹

#### ①バセドウ病に併発した薬剤性 ANCA 関連血管炎の一例

外川実和子

指導医：高橋 禎，日高 舞

X-4年よりバセドウ病に対しプロピルチオウラシルで加療していた55歳女性。X年Y月よりCrの上昇と蛋白尿・血尿の出現を認め薬剤性ANCA関連血管炎の診断に至った。文献的考察を交えて報告する。

#### ②関節リウマチに伴う間質性肺炎の急性増悪の一例

岩柳美沙

指導医：村上 悠

関節リウマチに伴う間質性肺炎に対してプレドニゾロン8mgで維持していた77歳男性。急性経過で両側すりガラス陰影が悪化し、急性増悪の診断でステロイドパルス療法を行った。画像的、文献的考察を交えて報告する。

#### ③偶発的にトロポニンI陽性となり、冠動脈バイパス術を施行した1例

大橋稜悟

指導医：伊藤拓朗

めまいを主訴に救急搬送された71歳男性。胸痛ないがトロポニンI陽性、またCOVID-19陽性であった。冠動脈造影検査で3枝病変を認め、冠動脈バイパス術を施行した。文献的考察を交え報告する。

#### ④DICを合併した重症成人発症 Still 病の一例

鈴木裕介

指導医：金子開知，酒井大輝

発熱，皮疹，関節痛を主訴に受診した52歳男性。DICを合併した重症成人発症 Still 病に対してステロイドパルス療法，シクロスポリン，免疫グロブリン大量静注療法が奏功した一例を経験したため報告する。

## ⑤大腿骨頸部骨折後に呼吸不全と意識障害を引き起こした一例

越川雄太

指導医：中神隆洋

85歳男性、転倒後に体動困難となり大腿骨頸部骨折の診断となった。その後呼吸不全、意識障害が出現し、精査のため当院に搬送された。教育的な症例を経験したため考察を交えて報告する。

## ⑥腹部超音波検査で偶発的に巨大腫瘍が指摘された一例

長峰舞香

指導医：宮村美幸

他院で維持血液透析を行っている68歳男性。自覚症状は特にないがスクリーニング目的の腹部超音波検査で腹部巨大腫瘍を指摘され、当院紹介受診となった。文献的考察を交えて報告する。

## ⑦重症筋無力症治療中に発症したリステリア髄膜炎の一例

南波健介

指導医：岡本龍一

78歳男性。発熱、意識障害で救急搬送された。診察上、髄膜刺激徴候なかったが、脳脊髄液検査から細菌性髄膜炎と診断した。血液培養で *Listeria monocytogenes* が分離され、抗生剤加療を行った。文献的考察を交えて報告する。

## 第IV部 出向中医師発表

座長：渡邊康弘，杉崎雄太

## ①重度便秘症から脊髄くも膜下出血に至った一例

藤川裕成

指導医：柴田貴久（いすみ医療センター）

重度便秘症のため長年硬便で、便通コントロールに悩まされていた方が、自宅で排便時に息んだ際に背部痛を認めたため救急要請された。採血検査・単純CT施行したが明らかな背部痛の原因は不明のまま、精査目的に入院となった。入院後も同部位の突発的な疼痛を訴えるようになり、症状改善得られないためMRI精査としたところ、脊髄くも膜下出血の診断に至った。症例報告数の少ない疾患であり、診断に至るまでの経過を報告する。

## ②初診時に診断できなかったレジオネラ肺炎の1例

櫻井大雅

指導医：寺田二郎（成田赤十字病院）

レジオネラ肺炎は死亡率が約10%であり迅速かつ適格な診療が求められる。我々は初診時に診断できずに帰宅され、2度目の受診で診断した1例を経験した。救急外来における示唆に富む症例と考察を報告する。

## ③膵臓癌の十二指腸浸潤による嘔吐で腎前性腎障害を呈した一例

田宮創希

指導医：斎藤将喜（聖隷佐倉市民病院）

膵臓癌の十二指腸浸潤による嘔吐で腎前性腎障害を呈した87歳女性。本症例では悪性疾患による胃十二指腸閉塞緩和に対して内視鏡的ステント留置の有効性について文献的考察を交えて報告する。

## 第V部 今年度優秀論文賞（白井賞）

該当者なし

## 第VI部 特別講演

座長：大橋 靖

講師：菅野義彦 先生

東京医科大学 腎臓内科学分野 主任教授

東京医科大学病院 副院長

演題：「大学病院でトレーニングをすること」

略歴：

菅野義彦（かんの よしひこ）

|         |   |
|---------|---|
| 1991年3月 | 慶應義塾大学医学部卒業   |
| 1995年3月 | 慶應義塾大学大学院医学研究科博士課程所定単位取得中途退学  |
| 1996年1月 | George Washington University Medical Center 訪問研究員   |
| 1997年1月 | National Institute of Health 訪問研究員  |
| 1999年4月 | 埼玉医科大学腎臓内科（医学教育センター兼任）  |
| 2010年2月 | 慶應義塾大学医学部血液浄化透析センター専任講師・准教授   |
| 2013年4月 | 東京医科大学腎臓内科学分野主任教授（2018年 大学病院副院長）  |
| 2021年9月 | 慶應義塾大学大学院システムデザインマネジメント研究科修士課程早期修了<br>東京薬科大学客員教授  |
| 専門領域    | 腎臓病学・高血圧・血液浄化療法・臨床栄養学・透析医学  |
| 学会役職等   | 日本臨床栄養学会理事長<br>日本透析医学会理事<br>日本病態栄養学会理事<br>公益社団法人日本透析医会 東京透析医会副会長<br>公益社団法人日本医療機能評価機構 医療クオリティマネジャー認定 |

## 研修医発表表彰式 松澤康雄

閉会の挨拶 齋木厚人

# 東邦大学医学部佐倉病院 内科学講座初期研修医発表

日時：2024年3月11日（月）

会場：東邦大学医療センター佐倉病院 7F 講堂

座長：木下利雄，中尾三四郎

## ①冬季に発症した夏型過敏性肺臓炎の1例

水倉悠聖

指導医：若林宏樹

既往歴の無い70歳代女性がSpO<sub>2</sub> 88%の呼吸不全で救急搬送された。特徴的な胸部CT画像，血清抗 Trichosporon asahii 抗体陽性で，11月にも関わらず過敏性肺臓炎と診断した。冬季に発症する夏型過敏性肺臓炎について考察する。

## ②インフルエンザウイルス関連肺炎契機に発症したARDSの1例

山口康太

指導医：入江祐介

パーキンソン病加療中の80歳代男性が体動困難を主訴に救急搬送された。インフルエンザウイルス細菌混合性肺炎を契機に発症したARDSの診断となり，抗菌薬・ステロイド投与により治療奏功を得た。本症例の経過および治療に関して文献的考察を交えて報告する。

## ③治療に難渋した心不全の一例

森田夢基

指導医：池田裕樹

PCI歴があり慢性心不全や高血圧で当院に通院中の60歳代男性が，頻回下痢を原因とする心不全により入院となり，その後再増悪を認めた。本症例と文献的考察を交えて心不全治療について考察する。

## ④抗TNF- $\alpha$ 抗体投与により発症したニューモシスチス肺炎の一例

東 鷹佑

指導医：岩崎広太郎

抗TNF- $\alpha$ 抗体の重要な副作用に日和見感染が挙げられる。今回，抗TNF- $\alpha$ 抗体がニューモシスチス肺炎発症の要因と示唆される症例を経験したため，免疫担当細胞との関連，発症機序を含めて考察し報告をする。

## ⑤着用型自動除細動器（Wearable Cardioverter Defibrillator：WCD）を導入した冠動脈バイパス術後の虚血性心筋症の一例

木村和雅

指導医：岩川幹弘

多枝虚血性心疾患による心不全があり冠動脈バイパス術を施行した60歳代の男性に，心臓突然死予防のためのICD治療までの間，着用型自動除細動器（Wearable Cardioverter Defibrillator：WCD）を導入した。文献的考察を交え報告する。

## ⑥中等量の副腎皮質ステロイドで発症したステロイド誘発性精神障害

荏原成彬

指導医：吉田規人，日高 舞，林 果林

60歳代男性が，左腎盂癌・腎尿管全摘出術後の抗癌化学療法を施行中にネフローゼ症候群を発症した．ステロイド誘発性精神障害は一般的にPSL 40 mgを超えると発症率が高まるが，本症例ではPSL 25 mgと少量かつ減量中であったにも関わらず躁症状や幻覚を認めた非典型的な経過であった．

## ⑦発熱を契機とした急性発症1型糖尿病の一例

今井海瑠

指導医：山岡周平

50歳代男性で糖尿病の既往のない方が糖尿病性ケトアシドーシスにて救急搬送された．発熱を契機とした急性発症1型糖尿病の診断にて入院となった一例で，発症に関与するとされる遺伝因子，環境因子の影響等，文献的考察を交えて報告する．